

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 27 年 1 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 26 年 10 月～12 月期の実績および平成 27 年 1 月～3 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	18 社	60.0%
水産業部会	30 社	19 社	63.3%
機械工業部会	30 社	13 社	43.3%
建設業部会	30 社	20 社	66.6%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	15 社	50.0%
合 計	150 社	85 件	56.6%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概況

ー業況は好転もほぼ横ばい。次期は3年振りに▲30を下回る大幅悪化の見込みー

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成26年10月～12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比で▲15.2**と前回調査時の▲16.5より**僅かに1.3ポイントの回復**となりました。前回調査時には悪化の見通しとなっていたため、予想外の良い結果となりましたが、依然マイナス値での推移と、厳しい状況が続いています。12月中旬の低気圧の影響によって紋別を結ぶ国道が相次いで通行止めとなり、物流が数日間滞ってしまった事や、電気代の値上げによる経費の上昇が大きく影響しているものと思われます。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業 [前年DI値▲16.7→今期▲16.7]、水産業 [前年DI値23.5→今期▲57.9]、機械工業 [前年DI値35.7→今期▲30.8]、建設業 [前年DI値33.3→今期10.0]、観光・サービス・諸業 [前年DI値5.6→今期20.0] となりました。

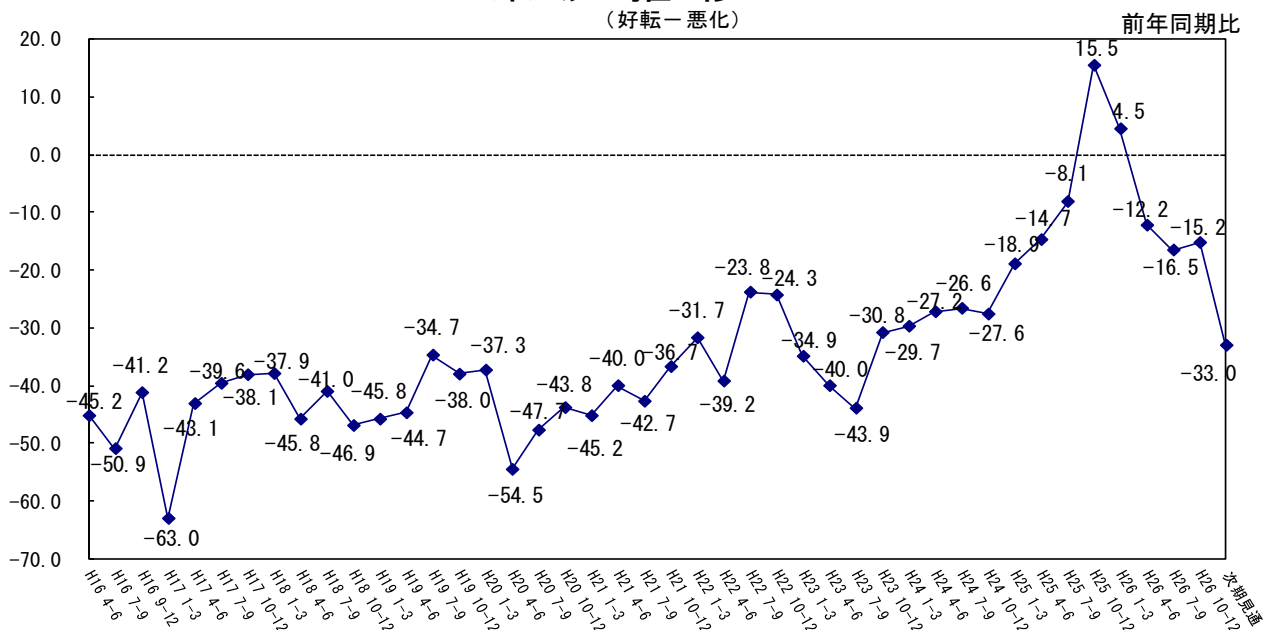
今回の調査で唯一業況が好転となった観光・サービス・諸業は、紋別と羽田空港を結ぶ直行便の年間搭乗者数の目標である6万人達成できる見通しが早々に出るなど、直行便を利用する方の増加に加え、忘年会シーズンとも重なり相乗効果があったものと判断されます。その一方で、水産業が最も大幅な悪化となり、原料価格の高騰など原料不足による影響が大きな要因と考えられます。機械工業部会は、例年になく好調だった前年と比較すると減少という声が寄せられております。

次期(平成27年1月～3月)については、全体では今期と比べて**業況判断DIが17.8ポイント大きく悪化(次期見通し▲33.0)**するとの予測となっており、DI値が平成23年同期以来▲30を下回るといふ大変厳しい見通しとなりました。今期大幅回復した観光サービス諸業の業種が▲46.7ポイントと66.7ポイント大幅に悪化するとの見方が強まっていますが、冬の観光シーズン本番を迎えることから上方修正ができるものと期待しています。また、暫くプラス域を保っていた建設業が、次期は平成24年同期以来9期振りにDI値がマイナス値と厳しい見通しとなっています。

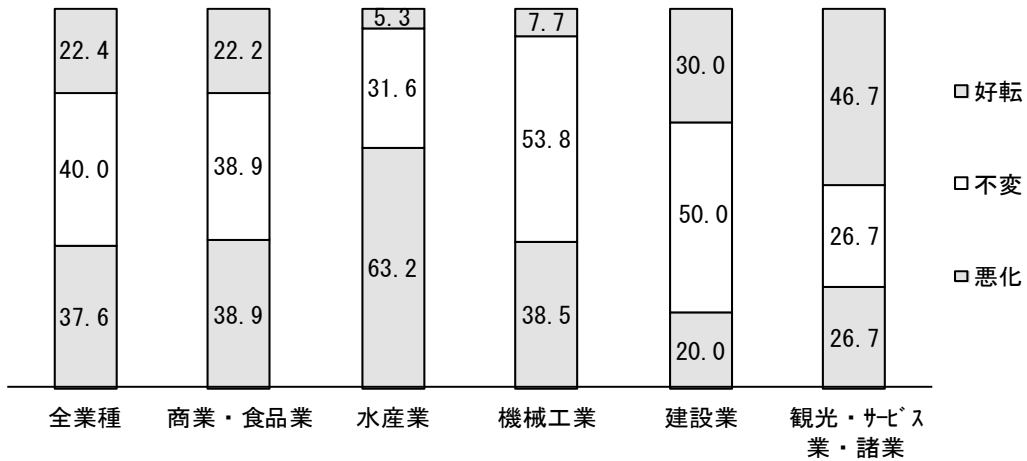
原材料高騰や経費の増加が事業経営を圧迫しているという相談も多数寄せられていることから、景気動向や経営状況等を踏まえて、国や道の補助金、各融資制度のセミナーや相談会を実施し、対応を図っていきたいと思っております。

業況推移

(全業種平均D・I)



今期の業況（前年同期比）



全業種の経営上の問題点としては、「材料等の仕入単価の上昇」「人件費以外の経費の増加」「需要の停滞」を訴える声が多く寄せられており、原材料不足による原材料価格上昇や円安による輸入材料の高騰、燃料、光熱費等の高騰に対する不安を訴える声が多くなっています。

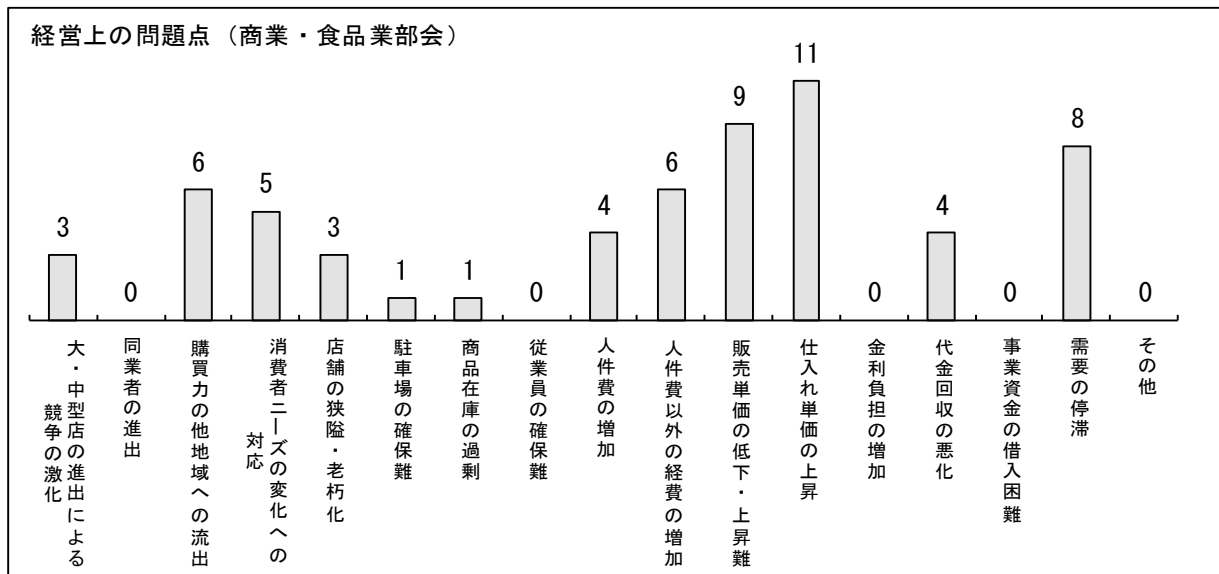
■部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲16.7（前年DI値▲16.7、来期見通し▲38.9）〕

業況DI値（前年同期比）は、昨年と同値と現状を保ちながらも依然として厳しい状況で推移しています。需要に応えるべく設備導入をし、新たな商材で大きく業況が好転したとの声も寄せられていますが、12月の猛吹雪の影響で物流が止まった事により、生鮮食品を扱う店舗から食料品が無くなるなど、需要はあるのに品物が届かなかった影響が大きかったと思われます。次期見通しは大きく悪化する予想となっております。経営上の問題点としては「仕入単価の上昇」「販売単価低下・上昇難」「需要の停滞」を訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・カスタマーの他市への移動や引っ越し。（小売）
- ・天候不良により物流が止まった。（小売）
- ・高齢による購買力の低下。（小売）
- ・除雪が困難。営業に従事する者が不足もあり、予定外の作業が入ると本来の営業に差し支え、身動きが取れなくなる。（小売）

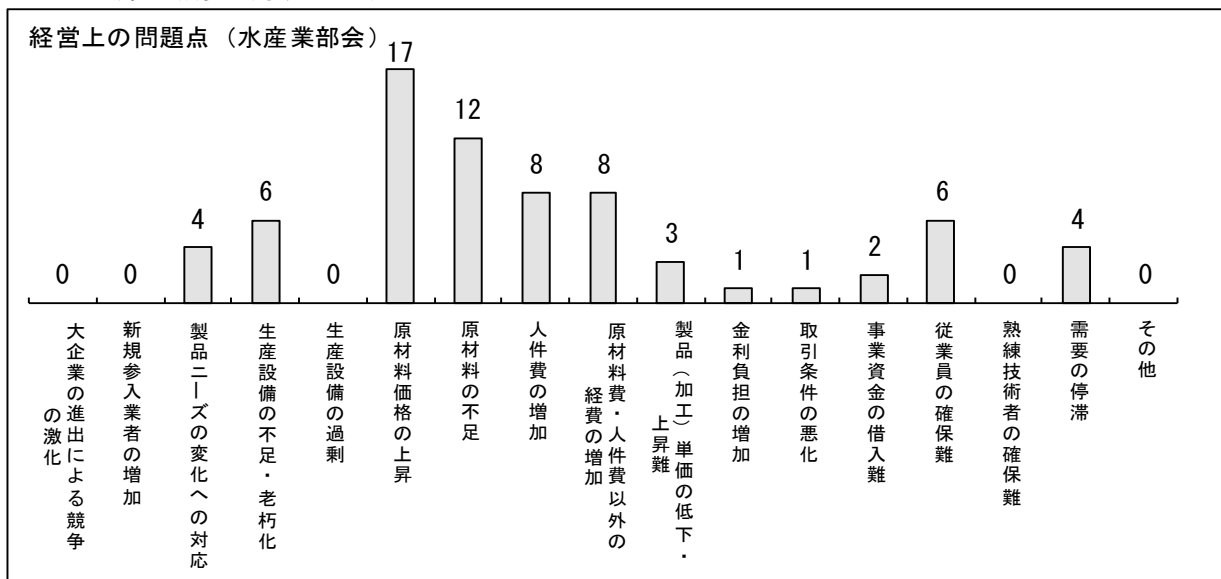


【水産業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）▲57.9（前年DI値23.5、来期見通し▲47.4）]

業況判断DI値（前年同期比）は81.4ポイントもの大きな悪化となりました。主力であるホタテ、鮭の他に、スルメイカや鱈も高い漁獲高となったものの、他地域の鮭漁が不振だったことから魚価が高騰。加工業者にとっては大きな傷手となっています。また、カニの密漁・密輸出防止の日ロ協定が発効されて以降、紋別港のカニの貿易船入港はないとの報道もあり、カニ加工業者は非常に厳しい状況になっていくものと思われます。経営上の問題点としては「原材料単価の上昇」「原材料の不足」「人件費の増加」「原材料費人件費以外の経費の増加」を訴える声が多くなっており、来期は、今期より若干回復も依然として厳しいとの見通しとなっています。

《業界の問題点等》

- ・従業員の確保（水産加工）
- ・広域紋別病院の移転に伴い、大店舗が其処に集中し、本町通りがシャッター通りになるのが気に掛かる。（漁業）
- ・ロシア船の減少（水産加工）

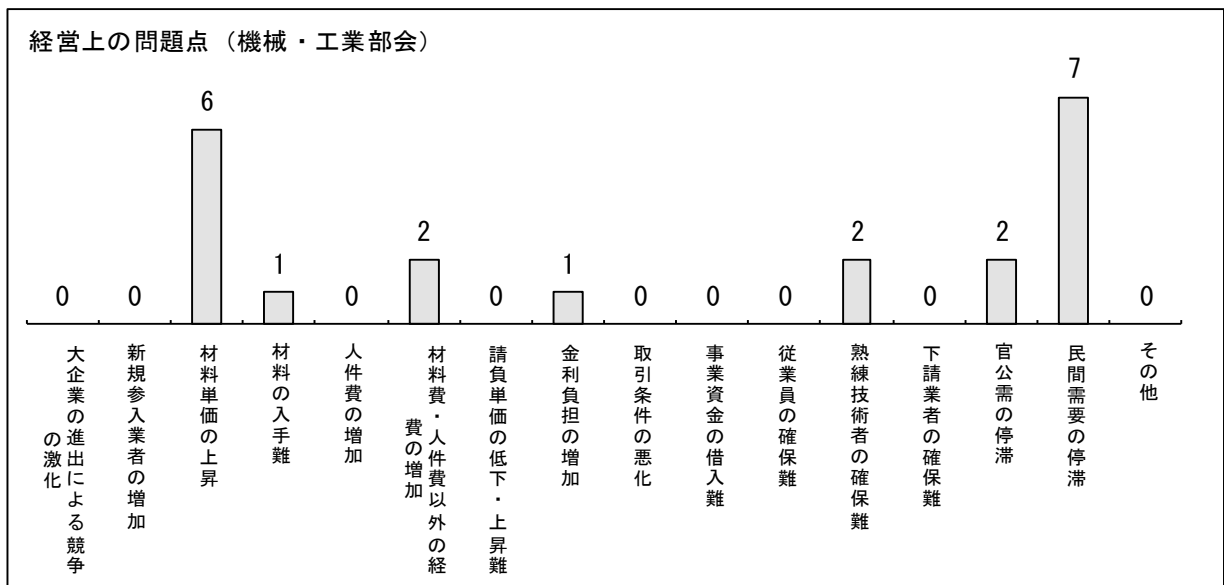


【機械工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比）▲30.8（前年DI値37.5、来期見通し▲23.1）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前年比68.3ポイントの大幅悪化となりました。要因としては資材等の値上がりや需要も停滞していることに加え、他の業種と密接に関わる部分が多い事から、建設業や水産業の変動に伴い悪化したものと思われます。来期業況見通しは▲23.1と冬期になり、最盛期を終えた業種の設備や車輛のメンテナンス作業が増加する予想もされるため、マイナス圏ながら好転する見込みとなっております。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」などを訴える声が多くなっており、

《業界の問題点等》

- ・前年同期の売上高が例外で良過ぎた為、かなり減少しているが、一昨年と比べると程不変。猛吹雪での通行止めの対応が早いので入荷予定の商・部品が入荷せず、天候回復までは売上がかなり落ちる。（機械修理）

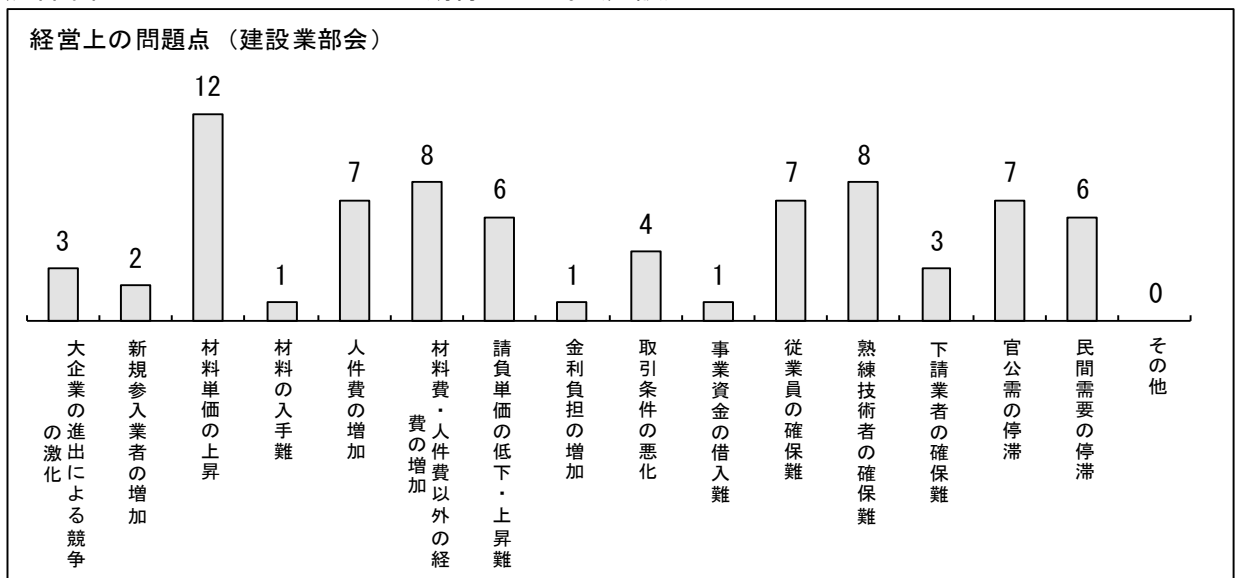


【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）10.0（前年DI値33.3、来期見通し▲10.0）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年比23.3ポイントと大きな悪化とはなりましたが、依然として業界全体としてはプラス域と好調な様子が窺えます。本年4月20日に新病院での受診を開始する広域紋別病院の移転新築工事、平成28年12月に稼働予定の住友林業によるバイオマス発電所の建設が大詰めを迎え、依然として好調をキープしております。しかしながら、次期は平成24年同期以来9期振りにDI値がマイナス値とかなり厳しい見通しとなっています。経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「材料費・人件費以外の経費の増加」「熟練技術者の確保難」などを訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・燃料単価が下がってきているので期待したい。（建設）

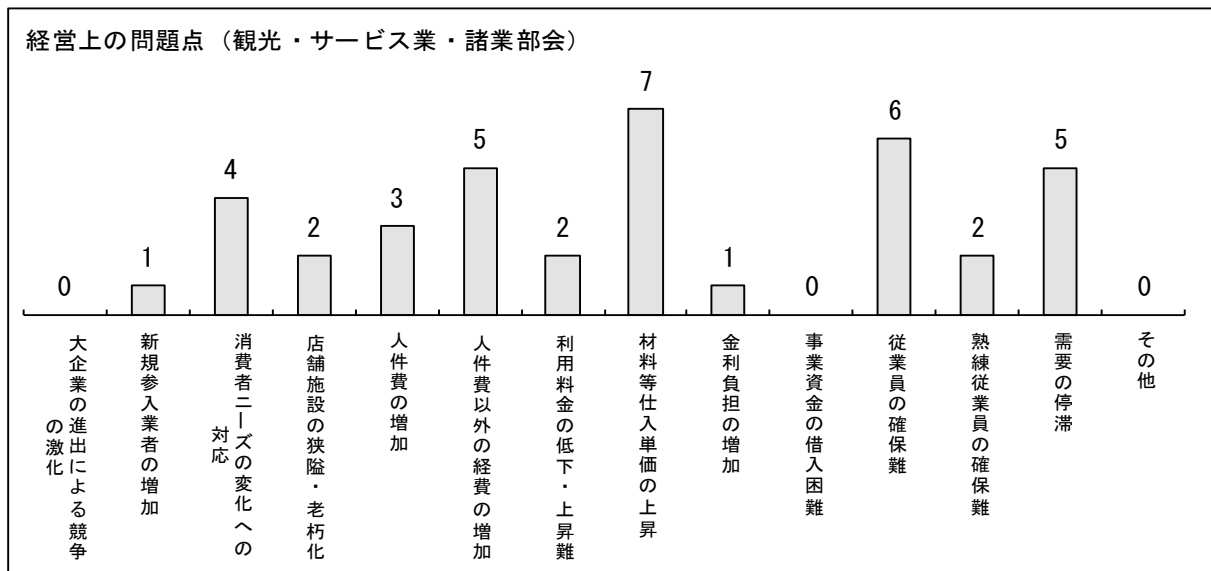


【観光・サービス業・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）20.0（前年DI値5.6、来期見通し▲46.7）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年よりも14.4ポイントの好転となり、地方空港活性化プログラムを活用してのPR効果も含め、3年振りの直行便の通年運行による利便性で現在までの搭乗者数も順調に推移している事が飲食業を含め多くのサービス産業に影響を与え、年末年始に係る生活需要も活発だったと思われま。来期は一気に60ポイント超の悪化見通しとなっていますが、冬季観光が本番を迎えるにあたりで観光客などの入り込み増加を期待していきたいところです。経営上の問題点としては、「材料等仕入単価の上昇」「従業員の確保難」などを心配する声が多くなっております。

《業界の問題点等》

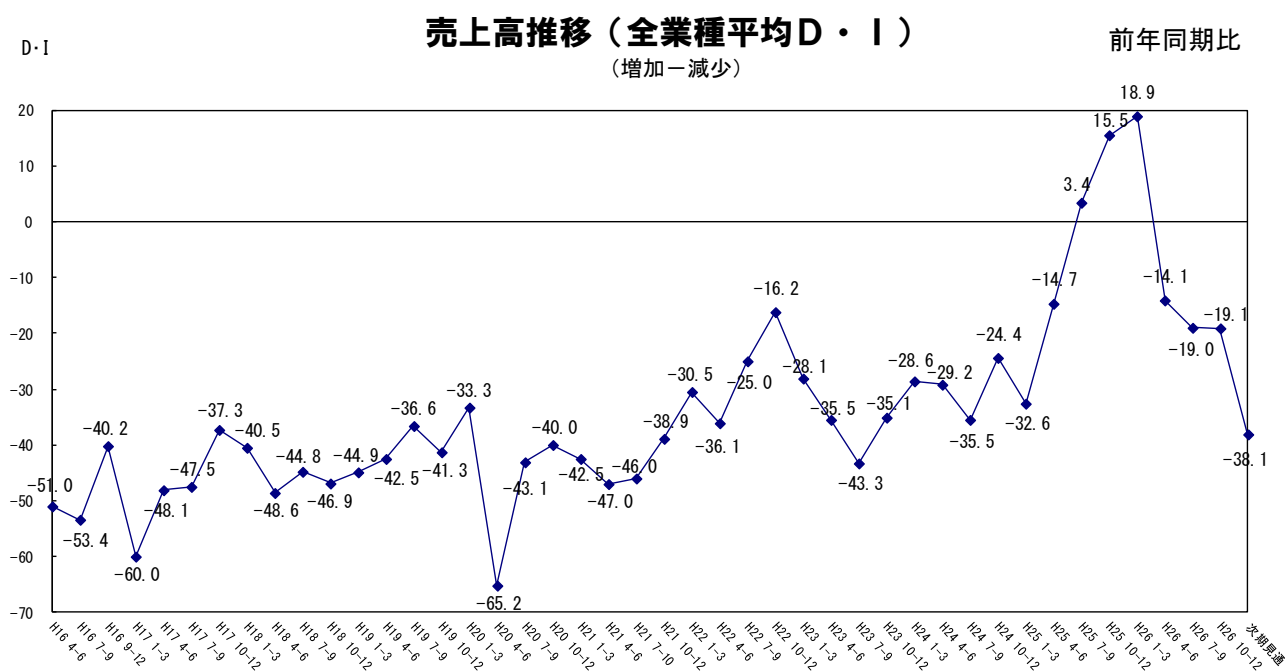
- ・ 事業の継続性の困難さを感じる（飲食業）
- ・ 材料仕入れ単価の上昇に加え、オーナー含めお客様の高齢化により、飲食店街に出る回数も控えていると思う。（飲食業）
- ・ 欠員の為、従業員の募集をしたが、ハローワーク、新聞広告に対して問い合わせが全く無かった。非常に厳しいと感じた。（飲食業）
- ・ 従業員の確保難。特に若手がいない（旅客運送業）
- ・ 天候による影響は大です。（理美容業）
- ・ 消費税増税からくる消費の停滞。（クリーニング業）
- ・ 電気料の増加（卸売業）



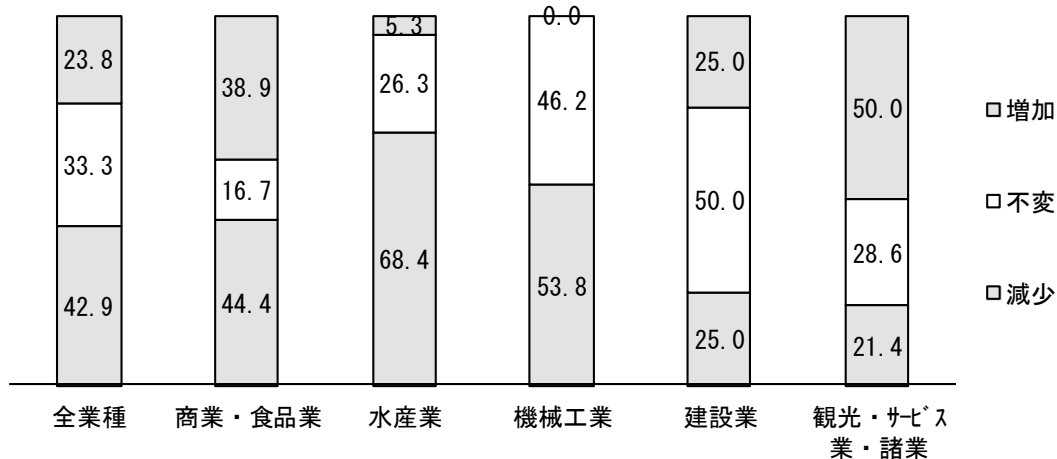
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



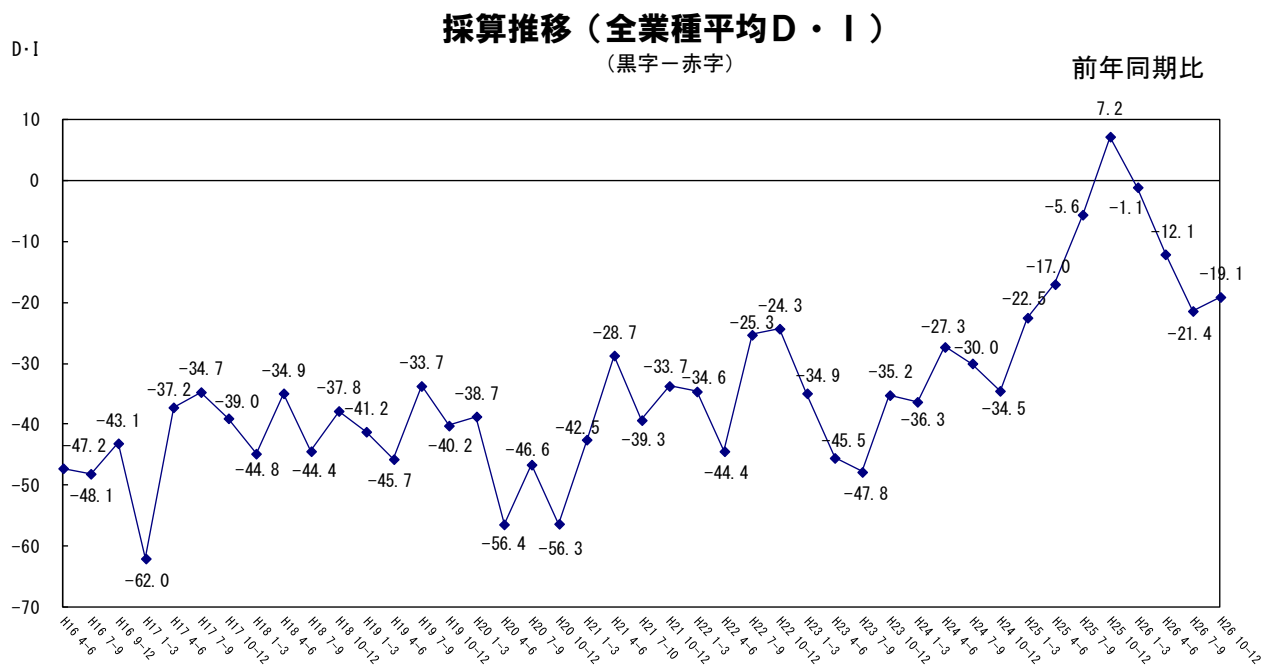
全業種平均で DI 値▲19.1〔前回調査時（平成 26 年 7～9 月期▲19.0）より 0.1 ポイント悪化〕
水産業、機械工業、建設業が大きく悪化。観光・サービス業・諸業が改善。

〔部会別 DI 値〕

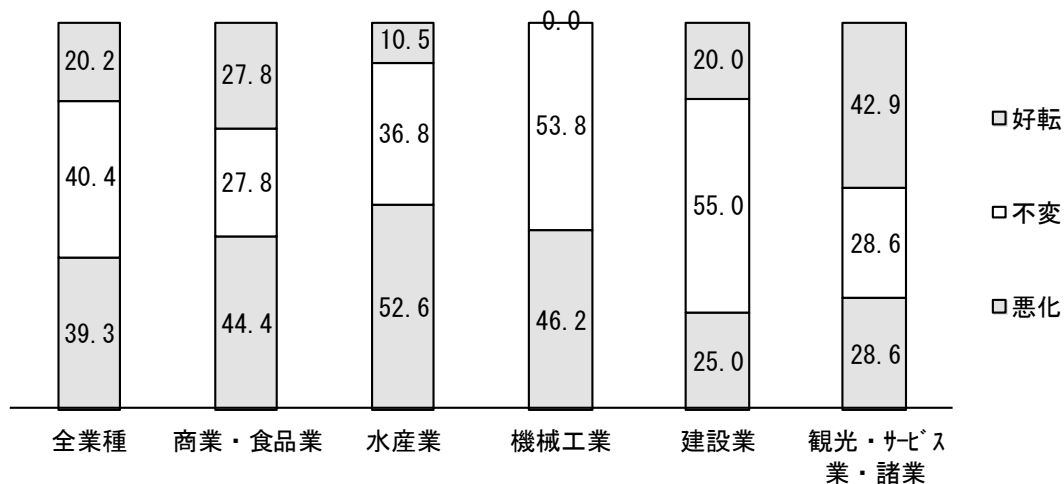
商業・食品業〔前年▲5.6→▲5.6〕、水産業〔前年 0.0→▲63.2〕
機械工業〔前年▲25.0→▲53.8〕、建設業〔前年 46.7→0.0〕
観光・サービス業・諸業〔前年 16.7→28.6〕

(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の採算水準）



今期の採算（前年同期比）

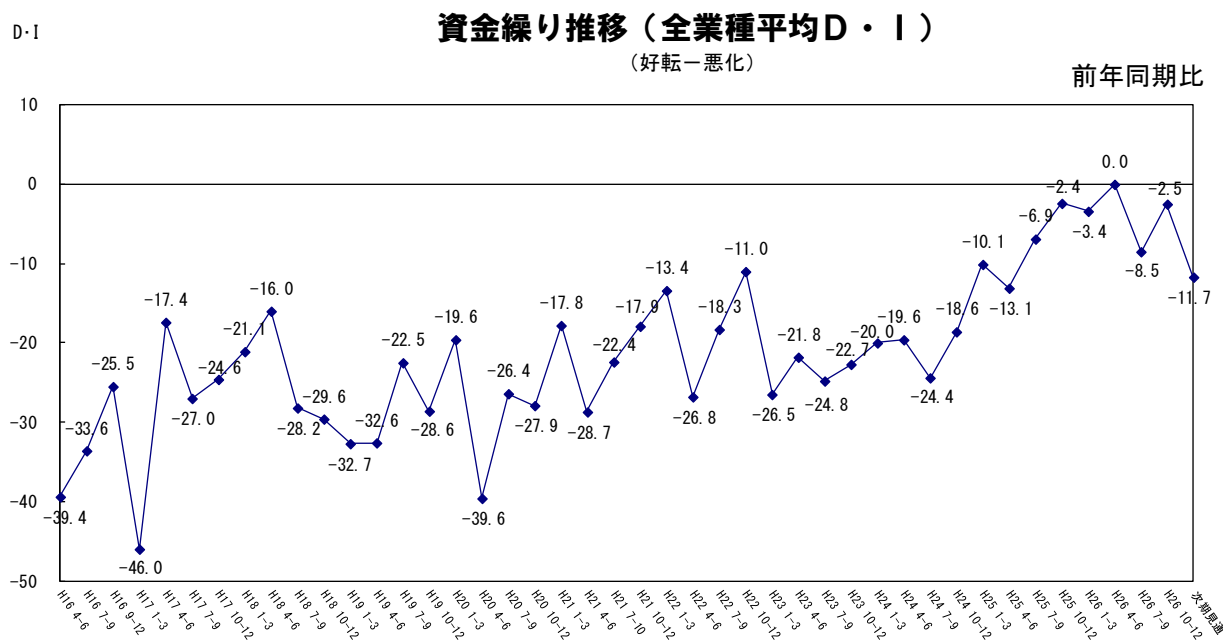


全業種平均でDI値▲19.1〔前回調査時（平成 26 年 7～9 月期▲21.4）より 2.3 ポイント改善〕
水産業、機械工業、建設業が大きく改善。

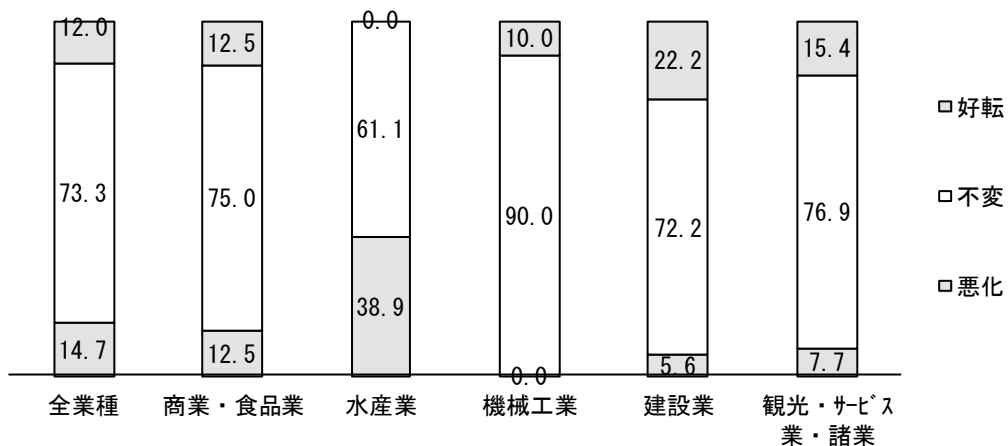
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲28.8→▲16.7〕、水産業〔前年 17.6→▲42.1〕
機械工業〔前年 31.3→▲46.2〕、建設業〔前年 20.0→▲5.0〕
観光・サービス業・諸業〔前年 0.0→14.3〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



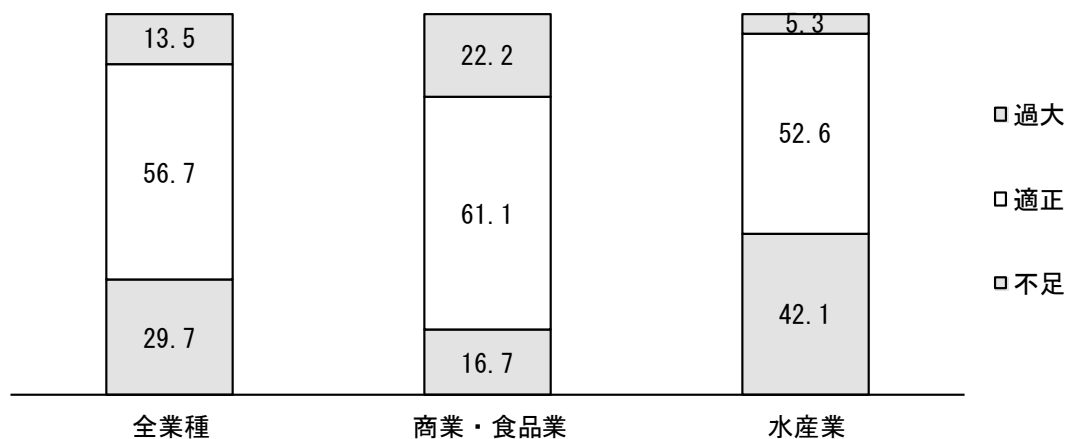
全業種平均で DI 値▲2.5〔前回調査時（平成 26 年 7～9 月期▲8.5）より 6.0 ポイント改善〕
商業・食品業、建設業、観光サービス業が改善。水産業が大幅な悪化。

[部会別 DI 値] 商業・食品業〔前年▲16.7→0.0〕、水産業〔前年 0.0→▲36.8〕
機械工業〔前年 18.8→8.3〕、建設業〔前年 6.7→15.0〕
観光・サービス業・諸業〔前年▲16.7→7.1〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



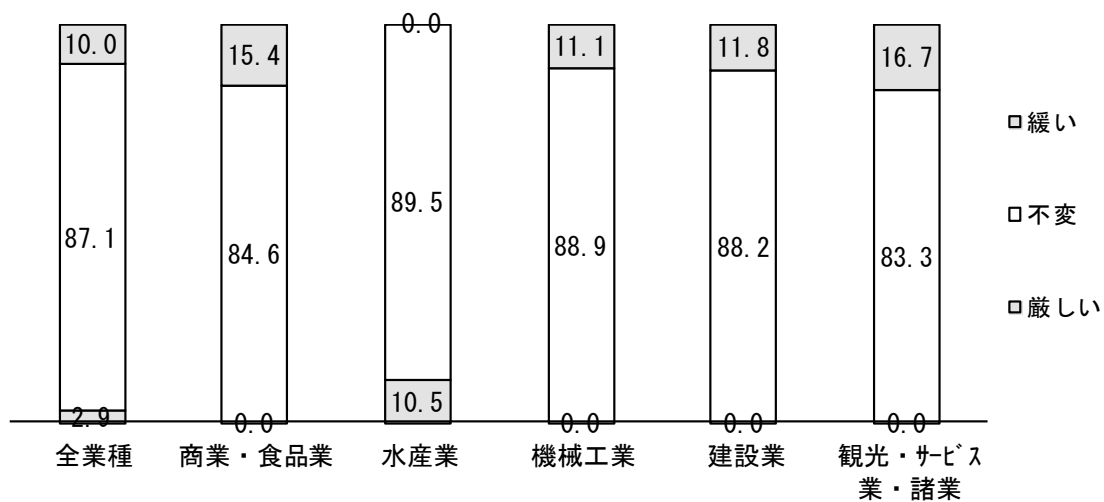
全業種平均で DI 値▲16.2〔前回調査時（平成 26 年 7～9 月期▲10.2）より 6.0 ポイント在庫不足〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲11.1→5.6〕、水産業〔前年▲17.6→▲36.8〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

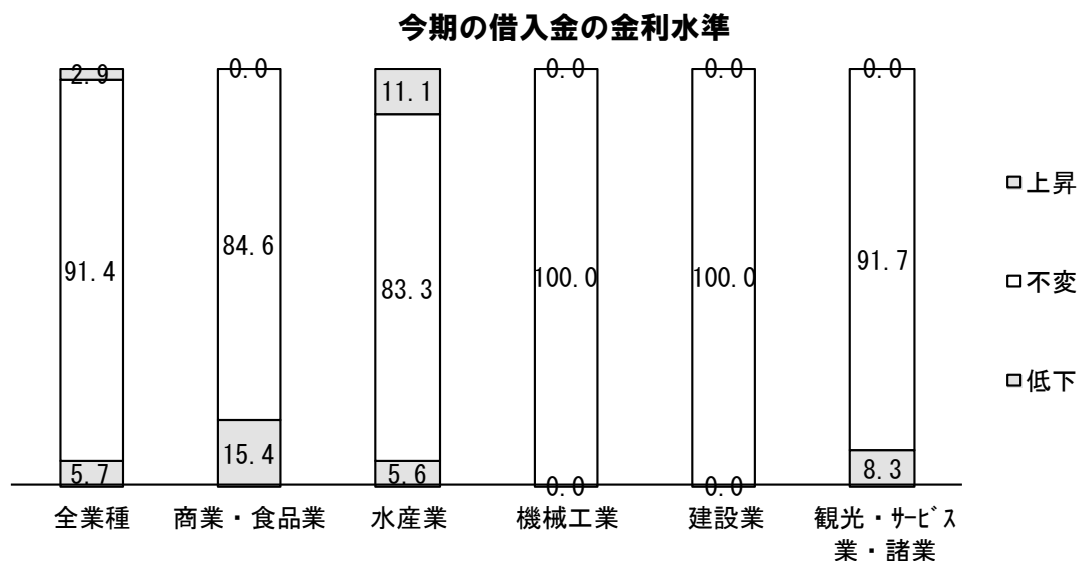
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で 7.1 ポイント。商業食品業 15.4、水産業▲10.5、機械工業 11.1、建設業 11.8、観光・サービス業・諸業 16.7

(6) 今期の借入金の金利水準

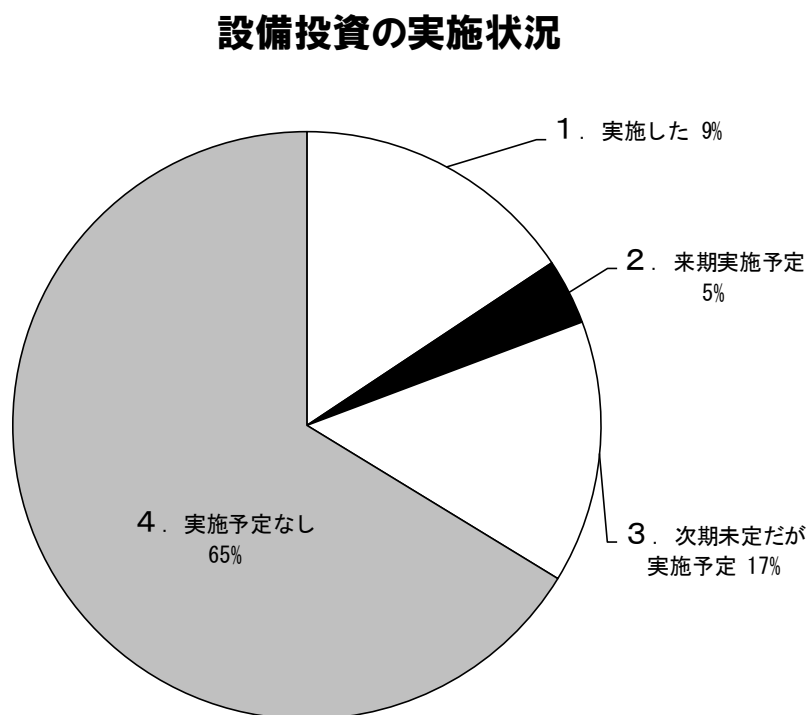
【前年同期比】（平成 25 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で▲2.8。商業食品業▲15.4、水産業 5.6、機械工業 0.0、建設業 0.0、観光・サービス業・諸業▲8.3

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

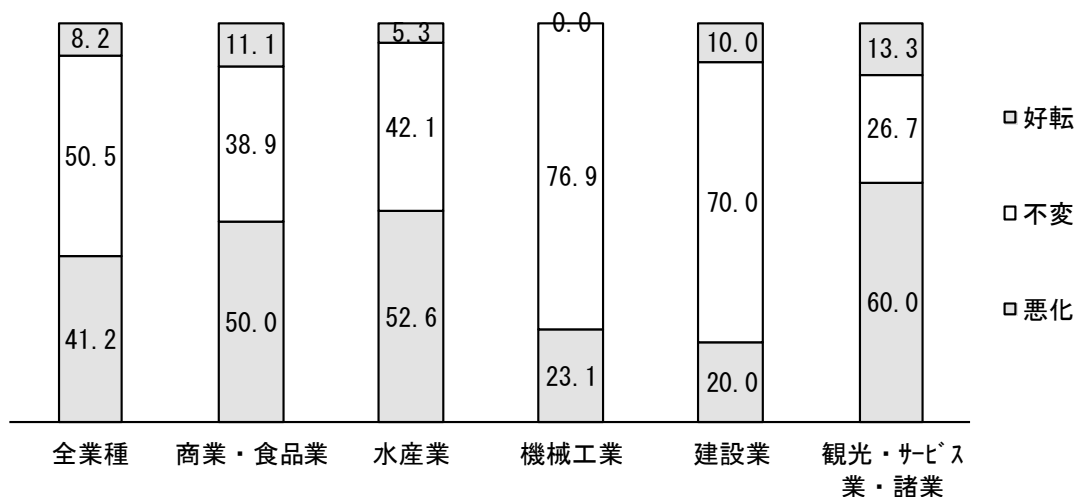


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 26 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

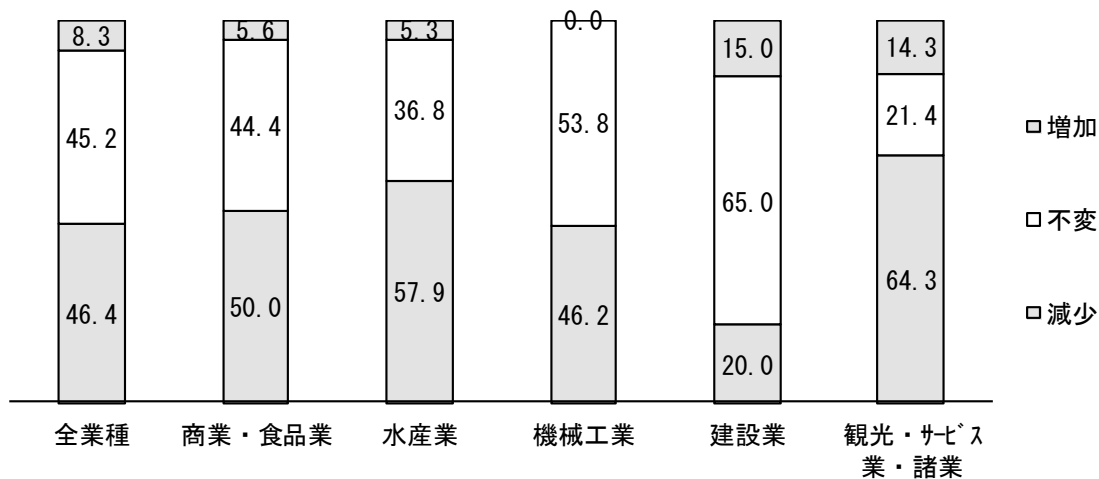


全業種平均 DI 値▲33.3 [今期の業況（前年同期比▲15.2）より 18.1 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 26 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

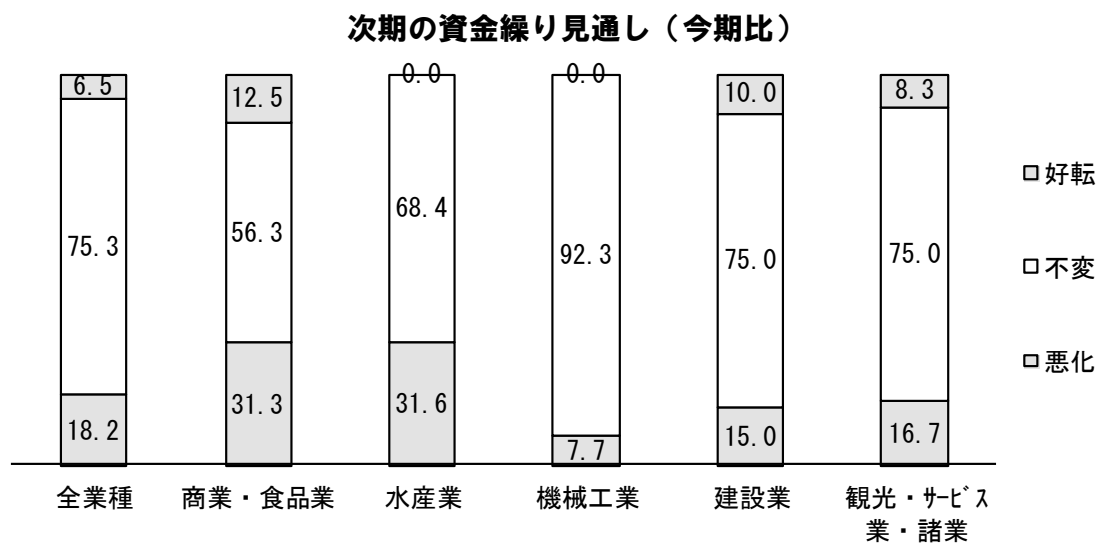
次期の売上高・生産高見通し（今期比）



全業種平均 DI 値▲38.1 [今期の売上高・生産高（前年同期比▲19.1）より 19.0 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 26 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）



全業種平均 DI 値 ▲11.7 [今期の資金繰り（前年同期比▲2.5）より 9.2 ポイント悪化の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス 入 ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲15.2	▲16.7	▲57.9	▲30.8	10.0	20.0
	来期見通し	▲33.0	▲38.9	▲47.4	▲23.1	▲10.0	▲46.7
売上 D・I	今期実績	▲19.1	▲5.6	▲63.2	▲53.8	0.0	28.6
	来期見通し	▲38.1	▲44.4	▲52.6	▲46.2	▲5.0	▲50.0
在庫 D・I	今期実績	▲16.2	5.6	▲36.8	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲19.1	▲16.7	▲42.1	▲46.2	▲5.0	14.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲2.5	0.0	▲36.8	8.3	15.0	7.1
	来期見通し	▲11.7	▲18.8	▲31.6	▲7.7	▲5.0	▲8.3
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	7.1	15.4	▲10.5	11.1	11.8	16.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲2.8	▲15.4	5.6	0.0	0.0	▲8.3
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。